

# ラマン分光分析新装置導入

EAGでは1月より新しい顕微ラマン分光装置（Horiba LabRam HR Evolution）を導入し、サービスを開始しております。

ラマン分光分析は、化学構造あるいは分子構造を特徴付けるスペクトルを測定し、化学結合の種類と物質の同定を行い、結晶性物質であれば結晶化の程度や結晶格子の歪みが分かります。医薬品分野からカーボン材料、電池材料、半導体材料分野などその応用範囲は多岐に及びます。皆様の分析ニーズにお応えできれば幸いです。

## <装置の特長>

- 紫外から近赤外まで広い測定波長域 200nm~2100nm
- 0.5 $\mu$ m以下の高空間分解能
- 超高速イメージング/マッピング
- 加熱ステージ（1500°Cまで）及び300mm試料ステージ
- フォトルミネッセンス（PL）検出機能

## <搭載しているレーザー種>

- HeNe ; 633nm
- Nd:YAG ; 532nm
- Diode ; 405nm \* GaN、化合物半導体評価に有効
- HeCd ; 325nm (UV) \* 微小領域（サブ $\mu$ m）、浅い深さ領域に有効
- Diode ; 785nm (近赤外) \* ポリマー測定時の蛍光抑制